

from **CRISIS to CURE**

MORAL RE-ARMAMENT
International Conference
Canberra. January 2-10, 1976

「危機から回答へ」という

オーストラリアのMRA大会招待状

新春、オーストラリアで

MRA大会が開かれる

明一九七六年一月二日から十日まで、オーストラリアの首都キャンベラで、MRA大会を開催するとの招待状が届いた。

その招待状によると、「**危機から回答へ**」を中心テーマとして、「危機から危機へと、同じ軌道を廻ることをやめなければならない。国々は危機の連続と訣別すべきである。

新しい建設的な関係を人と人、国と国の間に打樹てることのできる、新しい世界的な考え方が必要とされている。この新しい世界大会の考え方は、人々が神に導かれるとき生れるであろう。

その時、憎しみ、怖れ、貪慾から解放された高い質をもった生き方が生れるであろう」とのフランク・ブックマンの言葉を引用して、このMRA大会の基本理念としている。

更に、招待状は、「新しい生き方、新しい考え方を得たとき、オーストラリアは、その隣人たちと共に、世界に向って次の答えを示し得るであろう。

- 産業は、つまらない争いを事とせず、
 - 教育は、私心の無い人を育てることを優先的にとりあげ、
 - 資源は、人々の必要のために正しく用いられ、
 - 家庭は、人を融合し心を満たすところとなり、
- 太平洋、アジア地域の国と民族は、相互に、実現することが出来るであろう」としている。

ブックマン博士の生家を

MRAの創始者であるフランク・ブックマン博士がその少年時代を過したと思いの地、アメリカのペンシルヴァニア州、アレクサタウンの郷土史保存会が、博士の家の管理保存を申し出ている。単に物件として保存するだけでなく、博士の一生を通して残した業跡とその生き方の意義が後世に伝えられるように計画が進められている。



私は台湾で開かれたMRA大会に出席致しました。台湾は国外に出るのも難しいと聞いていましたので、今夏コーの大会で学びましたことをお知らせしたいと思ひ、併せてアジアを建て直すには、われわれアジア人の手でするしかなく、互いに助け合わねばならないと感じていましたし、又日本の中国承認の際の政府の態度は、終戦時蒋介石が「仇に報いるに恩を以つてせよ」と幾多の日本人が無事に中国から帰って来た恩義に対しても申訳ないと思ひて参加しました。

大会は小高い陽明山にある中国文化学院の講堂で、この大学の劉教授の司会により二百人の青年を迎え国家斉唱から始まり、一九五五年MRA劇「消えゆく島」が台北で上演された時蒋介石がフランク・ブックマンに送

つたメッセージ「MRAを通して作られた新しいタイプの人間によって真の民主主義と自由社会が作られる」という、当時の声テープで流されました。日本からは岸元首相の「MRAを通してアジアの新しい道が貴方がたの努力によって切り拓かれることを期待する」とのメッセージが発表されました。英国、漳州、香港、日本からも代表が

となる事を確信致しました。この大会は只一人の青年が正月に「大会を開く」という強いガイダンスを持ち、会場もお金もないところから一歩ずつ導かれて今回となったと聞きました。

メリカに養子に出されたと聞き親が子を国外に養子に出さなければならぬ胸中を思いその悲しさに同じアジアの日本がそれを何も助けられないで傍観している事を心から申訳なく恥しく思いました。ラオスでは今も尚何千人の人が殺されており、タイに避難した人々は、タイが新しいラオス政府を承認した為、ラオスに帰る外なく帰つても殺

中国(台湾)MRA大会 に参加した私の決意

住友美子

挨拶し、台湾の青年男女が確信を述べました。夜は台北シングアウトが五十名ばかりで上演し「心を開こう」に始まり、後は全部彼等自身の作詩作曲によるもので、ときどき感想を述べ、二時間の熱演の最後には舞台は溢れる熱情と勢力に満ち、観客一同共に歌つて感銘致しました。私はこの青年一人一人が神に導かれた時、台湾はアジアの灯台

いう事です。私自身の日常生活の些細な事に自己中心物質的である時、私の生活を見て決してMRAを理解しないであろうと恥しく思いました。

されるか又は下放といつて農村に送り荷酷な労働の下に死より外はないのが現状と聞きました。フランク・ブックマンは「一番大切な事は十字架を自分自身が体験する事であり、決定しなければならぬのは貴方と神との間の事です。一人でやりなさい」とも云われました。

かと思ひます。自分の人生で一番むつかしい時に、友人から与えられた、同じ一枚の手紙の數行にその人の信仰の深さと溢れる愛情を感じて信仰を得ました。MRAは神の仕事です。我々に何が出来るかではなく、神が私をどのように使われるかが問題です。私にはまだ恐れが一杯ありますが、神は我々を何時もチエンジさせて下さいますし、私が神に従う決心さえすれば、一歩ずつ導いて下さいます。それがMRAと思ひます。私は神が溢れる程の愛情を与え続けられるのに私の器のどこかが欠けていて、そこから恵みがこぼれてしまふ様に思ひます。私が充分な器でない事もわかつていますが、それでも数千人の死を隣で見ながらただ自分の力の足りなさの為にこの闘いを止めるわけにはゆかないのです。フランクは「自分の在り方が国の在り方だ」と挑戦されました。お互いが過去に受けた傷の痛みや苦しみを慰め合うのではなく、傷をも癒す愛情を与え、その人を高め神に近づける、それがMRAの仕事と思ひます。神の恵みの下に一刻も早く立上りましよう。恵みは溢れています。

ストを打つ権利と共に 働らく義務も忘れるな

—インドのMRA集会で—

爆弾事件が起り、多くの無辜の人々の中に死傷者が出たインドのジャムシエドプールで、最近MRAの会議が開かれた。その席上、全インド金属労組連合会書記長ゴペジュワー氏が次のように発言した。

「一体誰が悪いというのか、爆弾を投下した若い人達なのかその背後の人達なのか。犯人を処罰することは出来ても、殺人を犯してまで制度を変えようという考え方は残ってしまう。ところが、MRAの考え方をもつてこの町へ来た人達の人に対する深い思いやりと、行動力にわたしは感心した。実際のところMRAがこんなに影響力を持っているとは想像外だった。

「わたしは、スイスのコーのMRA大会に招かれて行ったのだが、コーは誰が金持で、誰が貧しいかなどは問題ではなく、

何が正しく、何が間違っているかが問われるところだ。普通の仕事場では、みんなが自分していることが正しいと思うのだが、コーはちがう。コーでは、みんな静かになって、何が正しいかを心に聞こうとする。われわれは、ストを打つ権利を要求するが、働く義務を忘れてはいけない。そうしなければ、正しい社会など作れるものではない

「また、われわれは青年がわるいというが、この国の危機は青年が作り出しているものではなく、年輩者の責任なのだ。われわれは労働すること、考えること、生きることの真の価値を見失ってしまったている。偉い人を崇拜するが、その人達の理想を生きようとしていない。指導者が不足しているのではない、自ら進んで行く意欲に欠けているのだ。MRAは一番大切なこ

と一人の心に新しい生命を与える—をしてくれる。

「労組の役割は単に賃上げをすることだけでなく、組合員を教育することにある筈だ。わたしは、組合員に対して立派な人になれ、仕事をよくしろ、と云う勇気を持たないことが多い。しかし、立派な人であれば、社会に貢献することも出来るし、賃金を正しく家族のために使う

階級闘争に

答える道は何か

—カナダのMRA集会で—

アルミニウムの産地として知られているカナダのケベック市の北部のアルマ市で、十月三十一日から十一月二日まで「階級闘争に答える」というテーマでMRAの会議が開かれた。会議を企画したのは、アルマ市のアルミニウム工場で働いている二人の工具であった。その一人、フランソワ・デュシェーンはい

ことも出来るわけだ。インドの自由の為に闘った人々を崇拜するだけでなく、その人達の信条を生活しなくては申訳けない。その為にも、正直と純潔を受け入れるべきだ。」

この会議にはタタ鋼鉄会社、インドケーブル会社、タタ機関車会社労組、その他市の吏員たちが出席していた。

「僕は暴力以外に社会を変える道はないと信じていたが、自分の考え方を変えるところも違うかとびびくりする程、周囲の状況が変り始めた。妻との間には新しい間がらが生れるし、職場も変った。妻のジョセリンも口をそろえていう。「MRAのおかげで、私たちは神に聴くことを学びました。家庭は社会生活の中核であることを思

うと、女のあり方が本当に大切だと思えます。」

もう一人はクレイン操業士のフェルナンド・デュシェーンであるが、彼の十人の子供の内、八人が会議に出席していた。辨護士をしている息子のグラチャンは父親を支持して語った。

「僕たち親子は新しい確信に燃えています。ケベックには種々雑多な背景の人がいて、それぞれの立場で革命を求めています。一番大切なことは各自が出来ることから始めることではないでしょうか。各自が道義的に目ざめることが、世界を道義的に導く第一歩です。ブルジョワも、資本家も、共産主義者も辨護士も誰もが、社会を良くする為に、犠牲を払う覚悟をすることが、世界を良くする道です。」

モントリオール市の著名な作家、グスタフ・モルフ氏は会議の終りに次のように発言した。

「カナダの経済状態は、イタリ、イギリスに次いで悪いとされている。その原因は激しい階級間の闘争にあると言われているが、それ以外に社会に変化を与え得る力があることをこの会議は見せてくれたのである。」

